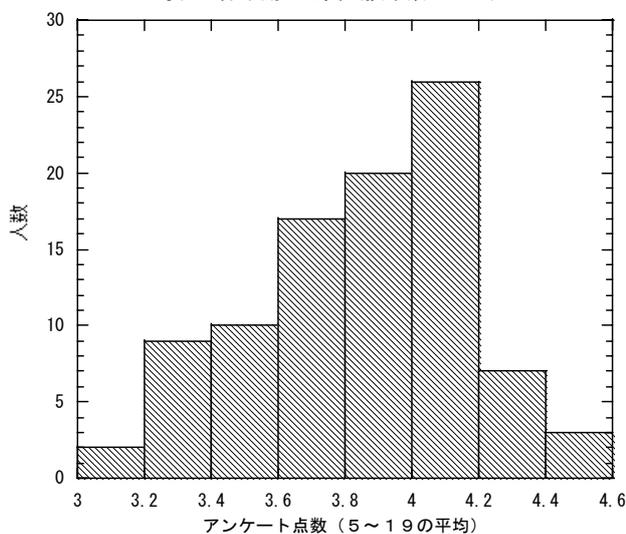


リテラシー学群 2008 年度前期 授業アンケート集計結果

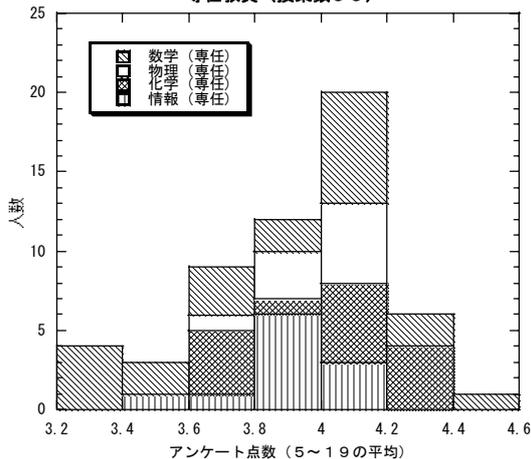
1. 自然科学系

注：アンケート点数とは、アンケート項目5～19の授業に対する学生の評価の平均点である。

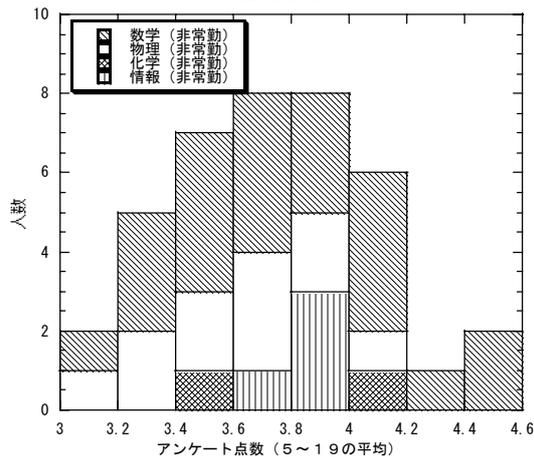
専任・非常勤 全員（授業数 94）



専任教員（授業数55）



非常勤（授業数 39）



部門毎の点数の平均(専任+非常勤)

	情報	数学	物理	化学
全員	3.9	3.8	3.8	4.0
専任	3.9	3.8	4.0	4.0
非常勤	3.8	3.8	3.6	3.8

全体の傾向

単なる教養と異なり、自然科学は工学の専門に直接つながる基礎訓練の色彩が強い分野が多く、学生の興味を引くだけでは済まない面もあり、アンケート結果が高得点になることは期待しにくい、その割に点数が高得点の授業が多い。また過去見られた点数の低い授業は減少傾向にあり、分かり易い授業を心がける教員が増えているためと思われる。

主任：岩松雅夫

2. 人文社会科学系

部門毎の点数の平均(専任+非常勤)

	人文社会	外国語	体育	教職
全員	3.8	4.1	3.9	3.9
専任	4.1	4.0	4.0	4.0
非常勤	3.6	4.1	3.8	3.7
提出総数	9	21	6	5

全体の傾向

例年と大差なく、おおむね 3.7~4.2 の間に評価されており、ひと頃見られた極端な高低はみられない。ただデータとしては母数はそう多くないので、あくまで参考資料程度にみるべきと思う。中には講義で3桁の学生数を持つもので高評価を得ているもの(視覚芸術論、ヨーロッパ文学論・哲学などの人社系にみられる)、逆にマンツーマンのように面倒を見ている語学などは、大いに評価さるべきと考える。

主任：山西龍郎